

[成果情報名] 定植時のピラジフルミド水和剤処理によるネギ黒腐菌核病防除

[要 約] ピラジフルミド水和剤の定植前苗灌注処理もしくは定植後速やかな散布処理を行うことで、年明け収穫までの黒腐菌核病被害を効果的に抑制できる。

[キーワード] ネギ、黒腐菌核病、ピラジフルミド水和剤、定植時処理

[担 当] 静岡農林技研・植物保護・環境保全科

[連絡先] 電子メール agrihogo@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 生産環境(病害虫)

[分 類] 技術(普及)

[背景・ねらい]

根深ネギ栽培における重要土壌病害であるネギ黒腐菌核病について、これまでに①被覆土壌消毒・②生育期(土寄せ時)殺菌剤灌注・③土壌 pH の中性維持などによる総合防除対策(斉藤ら、2019)を開発しているが、生産現場では労力不足から特に①が実施されないことが多く、安定した効果が得られにくかった。そこで、植物体内への浸透性に優れ、長期間効果が持続する新規登録殺菌剤である、ピラジフルミド水和剤の定植前苗処理もしくは定植後処理による省力的な防除の有効性を検討した。

[成果の内容・特徴]

- 1 ピラジフルミド水和剤(商品名:パレード 20フロアブル)を育苗期後半～定植当日にセル成型育苗トレイ 1箱またはペーパーポット 1冊(約 30×60cm、使用土壌約 1.5～4L)あたり 100 倍希釈・0.5L 灌注、もしくは定植後当日に 2000 倍希釈・300L/10a 散布を行う。
- 2 発病好適地温に遭遇する期間が比較的短い年明けまでに収穫する作型(図 1 年内どり、年明けどり)では、無処理で 8 割以上廃棄するような甚発生条件で、ピラジフルミド水和剤の定植前苗処理もしくは定植直後の処理は、従来の生育中に行う土入れ時、土寄せ時の殺菌剤 2 回処理と同等以上に黒腐菌核病による被害を抑制できる(図 2)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 本成果は発病好適地温に遭遇する期間が比較的短い年明けまでの試験結果であり、発病好適地温が長期間継続する春・夏収穫ネギでは、土入れ時、土寄せ時の殺菌剤処理を追加することで引き続き被害を抑制する。
- 2 育苗トレイ灌注処理は定植後処理に比べ省力的であるが、10a 定植相当分の育苗トレイ 75 枚あたり製剤 375ml を使用する。一方で定植後当日処理は 10a あたり製剤 150ml の使用で済むため、省力化の必要性に応じて使い分け、薬剤投下量を低減できる。

[具体的データ]

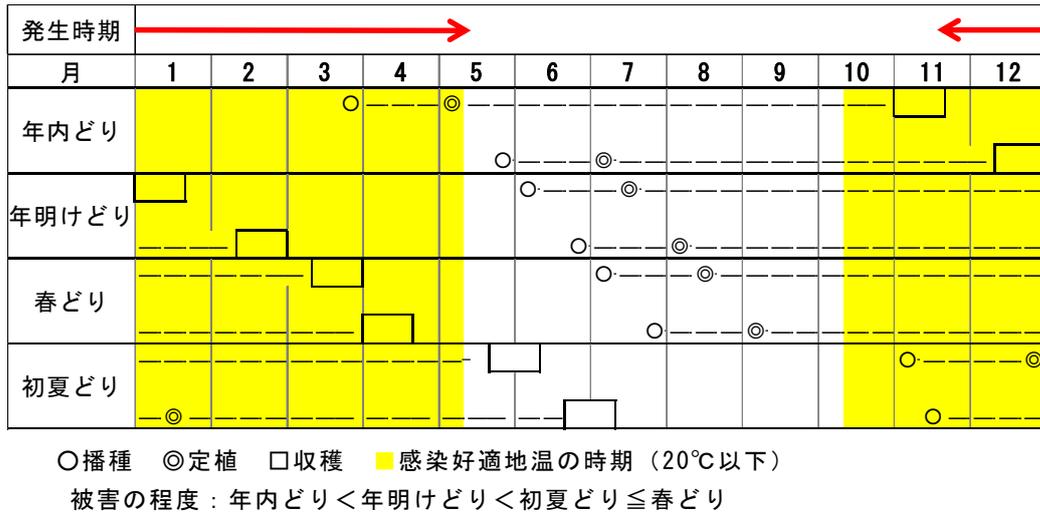


図1 根深ネギの作型とネギ黒腐菌核病の発病好適期間の関係(静岡県西部地域の例)

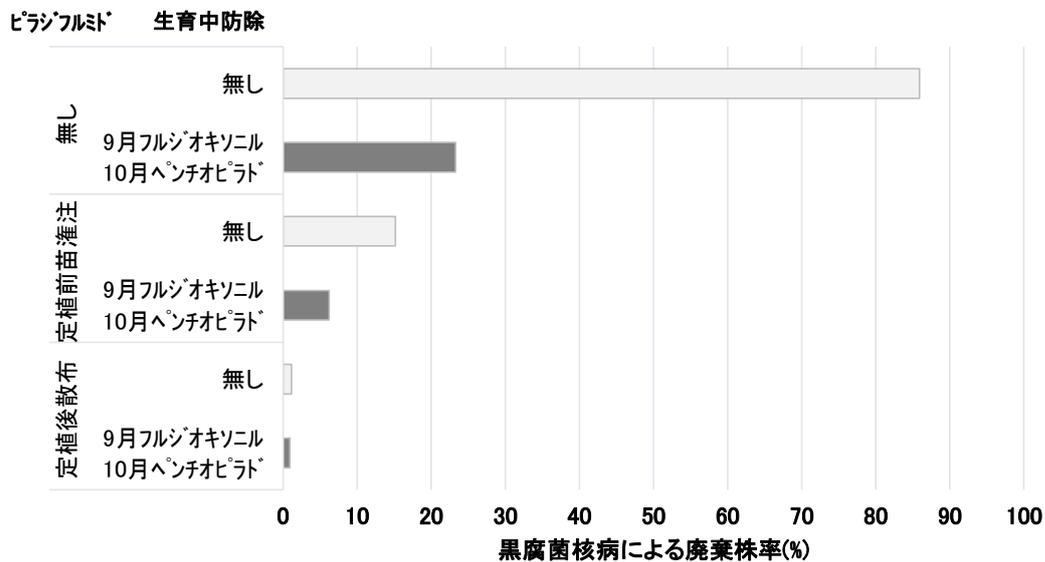


図2 定植時のピラジフルミド水和剤処理によるネギ黒腐菌核病防除効果(3反復まとめ) 静岡県磐田市内(未熟低地土) 前作(春どり) 廃棄株率90%強の圃場(土壌消毒なし)

- ・定植：R1/6/26 (品種：龍ひかり2号)、収穫調査：R2/1/21
- ・定植前苗灌注：R1/6/24(定植2日前)、定植後散布：R1/6/26(定植後当日)、生育中処理：R1/9/2フルジオキシニル1000倍・300L/10a 散布、10/7ベンチオピラト1000倍・1L/m²株元灌注

[その他]

研究課題名：圃場の健康診断に対応したネギ病虫害予防的管理技術の開発

予算区分：国庫

研究期間：2016～2021年度

研究担当者：伊代住浩幸、鈴木幹彦、斉藤千温、高橋冬実、墨岡宏紀、寺田彩華、金原菜見

発表論文等：斉藤ら(2019)日植病報 85:325-333